

## 平成三十一年度 第一学期 始業式に臨んで

新二年生、三年生の皆さん、進級おめでとうございます。四月になり、学年がそれぞれ一つずつ上がりました。高等学校では、一年が経つと自動的に学年が上がるわけではありません。進級するには一定の成果が必要です。これについては、昨年度の皆さんの努力があったのは勿論ですが、その陰にはたくさんの人の支えがあったはずで、感謝の気持ちを忘れないようにしてください。

さて、本日は沼南高柳高校の校訓を改めて確認しておきたいと思えます。

本校の校訓は「自律」です。ところで「じりつ」には二つの漢字がありそれぞれ意味が違います。

一つは自分の「自」に「立つ」という字を書いて「自立」です。これは他人の助けなしで物事を行えること。ひとり立ちという意味です。

もう一つは、自分の「自」に法律の「律」を書いて「自律」です。こちらは自分を律する、つまり「自分で自分をコントロールする」ということです。

さて、本校の校訓はどちらでしょうか。本校の校訓は後の方の「自律」です。つまり自分を律する、「自分で自分をコントロールする」ということです。二つの「じりつ」ともに大事なことは思いますが、本校では、自分を正しく制御・コントロールできる人であることを一番大切なことと考えています。

小さな子どもは、なかなか自分の行動をコントロールできませんから、他人からいろいろ手を差しのべられています。通常、子どもは親や周りの人から、いろいろ助けてもらったり叱られたりして少しずつ大人に向かっていくわけですね。

高校生である皆さんは、どうでしょうか。「自律」できているでしょうか。私が見るところ、皆さんはまだその途中、大人になる少し手前のところにいるようです。そのような成長の通過点でありますから、まだ先生方は必要があれば皆さんを助けていきますし、そして叱ることもします。それは学校の果たすべき機能の一つです。いまま少しの間は、助けられて、ほめられて、叱られて、学んでいく時間

ですので、先生方も、あなたたちの将来を考えて、先々の展望を見ながらいろいろと支援と指導して下さるでしょう。

そうであっても、皆さんは意識してできる限り早く「自律」するように心掛けなければなりません。これが私が今日、あらためて皆さんに伝えたいことです。なぜなら、現代の若者にとって「自分で自分をコントロールする」ことはとても大切であり、差し迫って必要な能力だからです。

私が高校生だった遙か昔は、もちろんインターネットやスマートフォンは世の中にありません。電話は一家に一台の据付け型、それもコード付きの受話器で、親に内緒で電話などなかなかできません。今でいうメールは郵便のみで、家の郵便受けに配達されます。異性に手紙を出せば相手の親に知られる可能性は大です。ある学校では「異性の友人に手紙を出すときには、葉書でなければならない」という校則があったそうです。今では全く意味をなさない規則です。ゲームセンターありませんでした。幸い自分の部屋はありましたが、そこには机と本棚くらいしかありませんでした。

皆さんのご両親もおそらく、まだインターネットのない高校生活を送った人が多いのではないかと思います。

何もないので、子どもは普通に生きるしかありませんでした。悪い世界を簡単に知ることは出来ない環境になっていました。親や学校が厳しかったというより、悪さをしようにも、誘惑されるような環境は普通なかったわけです。簡単には道を外しにくい環境でした。

ところが今は、誘惑や簡単に遊べる場所がたくさんあります。ネットの世界はあなた達の手のひらにあるスマートフォンに広がっています。そこには有用な情報、知識がある一方で、様々な誘惑や悪事が広がっています。そして、大人は、親は、教師はそれを監視できない時代です。人格の発達途中の若者は誘惑に弱いものです。現代人は大人を含めて、自分がしっかりしないと、簡単に道を外れてしまう世界に暮らしています。道はずそうとしなくても、気が付いたら外している、そしてこうなるとは思わなかったと後悔する、こういう現代です。それは便利さと裏表の関係で、止めることはできません。

そういう時代にますます必要なのは、自分を自分でコントロールする力です。大人は子どもの部屋でどのようなネット空間が広がっているかまでは、知ることはできません。だとすれば、自分が自分をコントロールすることが、本当に大事なことになります。そういう時代にみんなは生きているのだと、再度意識してください。

自律、これは本当に必要な力です。確認します。本校の校訓は「自律」です。自分を正しくコントロールできる人間になってください。

さて、いよいよ新しい一年間が始まります。三年生、二年生、そして明日入学する一年生、皆さんの努力と成長と自律を期待しています。みんなで充実した一年にしていきましょう。

平成三十一年四月八日